

ボランティア活動グループ訪問記



「普通ってなに？」

精神保健ボランティアグループ

『ひびき』を訪ねて思ったこと

ほかほかふれあいフェスタの余韻も冷めやらない10月23日(水)、相模大野駅から続くホーン相模大野の地域福祉施設で活動している『ミチザ』におじゃましました。

この『ミチザ』は、精神保健ボランティアグループ『ひびき』の活動の中心で、発達障がいを持つ人たちの情報交換や心を休める場として2018年から活動を続けています。それ以外にもけやき体育館での食事を中心とした『けやきの集い食事会』や、2006年から続くボランティアスナック『ひまわりのおしゃべりの場』や、『橋本のソライロ』がみどり集いの『ラバンダー』、ギオンアリーナを拠点とした『フットサルあしたはF.O』など、さまざまなかみコミュニティを運営しながら、心を病む人たちの隣人・友人としての交流を深めているのが『ひびき』です。



ひびき代表の根岸さん

『ひびき』のメンバーは、ほかほかふれあいフェスタで人気の焼きそばブースを出している団体なので、今回けやきが美味しい焼きそばの作り方が聞けるのではないかと期待していたのですが、そんな話題を出す隙もなく話が始められました。

集まった幅広い年齢層の名から、この1カ月であった事、印象に残ったことなどを順番に話していきました。話題は、体調やイベント、料理実習の感想やバラエティーに富んでいて、個性を感じる表現なども印象的でした。

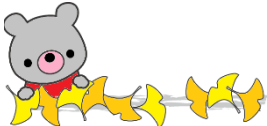
その後、リーダーの根岸昭臣さんが持参したビデオを観賞しましたが、お笑い芸人の鳥居みゆきさんのお話を中心とした番組でした。見終わったあと、「一言一句の感想を言い合ったのですが、筆者が感じたのは「普通って何？」という鳥居さんの言葉でした。」例えの手を洗っている行為は「普通だが、それを一日中繰り返していればそれは異常だ」と言われる。普通と異常の境い目は人それぞれ「なご」これまでの生きづらさを語る鳥居さんの言葉が新鮮に感じられました。一緒に見ていた皆さんは、「普通の経験談だったというのです。」



リーダーの根岸さんと「なご」ひびき結成のきっかけは1992年に社会福祉協議会の主導で開催された精神保健ボランティア養成講座でした。受講した有志20名で結成された。

- ① 心病む人たちの正しい理解を
- ② 地域に支援の輪を広げる
- ③ ボランティア自身の自己成長を図る

この3つの柱を掲げて活動を始めました。人を相手とする活動は決して簡単なもので



はないと思いますが、「これまで長く続けられた背景には、いろいろな苦労もあったのでは」と水を向けると、根岸さんは「慣性です」と一言。その肩の力が抜けた容えに、こちらの気負いも消えてしましました。

会費は障がいを持つ当事者も含めて約40名。10年以上続けて参加している人が多く、当事者の居場所として居心地のよい場になっていくことを物語っているように思いました。

けやき会館での食事会などは、人数分のお弁当をボランティアさんが独りで作っていたという話もいくつか聞かれました。決して慣性などはなく、多くの会員さんの熱意が支えられていることが伝わってきました。

参加者の中には、ラバンダー・すずらん・ミチザなど、複数の集まりに出席する人も少なからずいらっしゃると伺いました。中には厚木からわざわざ来てくれる人も少なくない。そのように遠くからでも気軽に来てくれる人がいて、喜んでいる姿を見ると反応を感じられるのが、継続の力になっていくと、根岸さんも少しづつ心のうちを丁寧話していただいているので、気がつくかなりの時間を取材に付き合っていたので、恐縮しながら辞せてきました。



参加者の皆さんがとってくださる活動の原稿を書き終えました。(右欄・小川)